

樽前山周辺地域での火山防災教育の取り組み

国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

治水課 谷口 清

羽田 節雄

○坂井 信行

1. はじめに

樽前山は日本でもっとも活発な活火山のひとつです。樽前山の活動はおよそ 9000 年前から始まり、歴史時代以降にも数多くの噴火記録があります。なかでも 1909（明治 42）年に山頂火口内に出現した溶岩ドームは世界的に注目を集めました。火口部で高温状態が続くなど、気象庁が常時観測火山に指定している活火山の 1 つで、1981 年以降噴火はないものの噴火に備えた防災対策が急務となっています。また、樽前山周辺には新千歳空港や特定重要港湾・苫小牧港、高速道路、JR 室蘭本線、国道 36 号など道内や北海道と本州を結ぶ重要なインフラが集中していることや南麓に 17 万人の人口を擁する苫小牧市が存在することなどから、平成 6 年に直轄火山砂防事業に着手し、泥流・土石流対策としての遊砂地建設や監視機器の設置、ハザードマップ整備、防災意識啓発活動等が北海道開発局、北海道、地元市町、関係機関等の連携の下で進められています。



南山麓から見た樽前山

2. 防災講座や教育素材の開発

防災教育検討会を設置して教育関係者と防災関係機関が連携して防災に関する地域教育の推進について検討を進めています。また、樽前山環境防災副読本検討部会には樽前山火山防災会議協議会に加入している自治体の小・中学校教諭（10 名）が参加し、H18 年度には中学生版の樽前山環境防災副読本を作成しました。H19 年度は中学校へ約 5500 部を配布するとともに試行授業を実施した他、H18 年度までの検討を踏まえ、小学生版の作成、教師用テキストの検討を行っています。また樽前山周辺地域の一般市民や児童・生徒を対象としたワークショップ（出前講座）を地域の要望に応じて随時開催し、正確な防災情報を地域住民に発信することにより地域の防災力向上、防災に対する意識啓発を図っています。

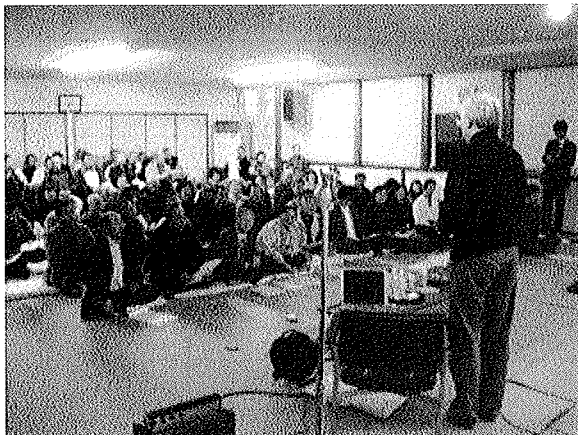


防災教育検討会の開催

苫小牧市と室蘭開発建設部、室蘭地方気象台、室蘭土木現業所が協働して、平成17年度から苫小牧市民防災講座（苫小牧市）を開催しています。



市民防災講座での図上訓練



錦西・すずらん町内会での出前講座



環境防災副読本の試行授業



露頭と巨石看板

3. 今後の予定

平成20年度 防災教育の支援活動、防災ワークショップの実施

（小学校においての教員研修、副読本を活用した防災啓発活動、防災教育推進プランの実践）地元自治体や地域住民と協働した防災検討ワークショップ。

平成21年度以降 防災教育の支援活動、防災ワークショップの実施

（副読本を活用した防災啓発活動、防災教育推進プランの実践、総合的な防災啓発活動）地元自治体や地域住民と協働した防災対策の実践。